

四旬節第2主日の説教

金 大烈 神父 2011年3月20日(日)

《この大災害の中で》

主の平和！

皆様、大変だったでしょう。まだ落ち着きにくい状況が続いています。今度の地震、津波、原子力の爆発、こういうことによって国内だけでなく全世界が動いていることは皆様ご存知だと思います。

こういうあってはいけない災害に襲われたとき、人の心は大体二つに分けられます。どのように二つに分けられるのでしょうか？ 一部類の人々はできるだけ逃げようとします。もう一部類の人々は現場に入って何か役にたつことを探そうとしています。これはどちらが良い、悪いという話ではありません。今現場で命を懸けて、自分は死ぬことを覚悟して遺言のような手紙を家族に書いておき、がんばっていらっしゃる方がたくさんいます。または国内でも国外でも安全な所に行く為になんとかして飛行機の手ケットを探している人もいます。その人々が悪いとかというわけではありません。しかし、もし私達が二つのうちどちらかを選ばなければならないとしたら、私達の選ぶ基準は福音でなくてはいけないということです。福音とはどういうことでしょうか？ それは病んでいる人々の中で、痛んでいる人々の中で一緒に痛みと与えることです。命を救おうとするという心の決意が必要じゃないかと思います。

私達がこのような普通の生活をしている間にも、今、命を失う危険の中にいる人々います。そういう人々を支えようと戦っているすばらしい魂を持った人々もいます。そういう人々のために私達は祈りを通して支えなければならないと思います。今インターネットで軽いけど感動的な物語が広まっています。きれいな歌を作曲して歌いながら応援している人もいます。自分の全財産を無くしながら一人の命でも救おうとしている人々も沢山います。隣の国から、遠い国からローソクをつけて泣きながら祈っている人々の心もあります。ですから、ある意味で苦痛の中には必ず希望があります。そして光もあります。私はこの痛みの内に一つの希望を見つけました。こういうことによっていろんな壁が崩れることもあること、すべての人々が憎しみから解放されて一つになって、同じ目的、意向を持って祈れる事が分りました。ですのでもし、私達人間が犯した罪によって起こった災害だったら、これがきっかけになって私達全ての人類が悔い改め、一つになって正しい人間性を取り戻す機会になるかもしれません。ですから私達はあきらめてはいけません。

これからはできるだけ否定的な思いより、肯定的な思いを持ちましょう。神様は私達が願うことが有る限り、絶対私達を諦めません。私達が神様を諦めても神様は私達を諦めません。神様は私達を諦められないということを固く信じましょう。そういうことが何より必要な時期じゃあないかと思いません。この時期こそ私達が本当に正しくこの世を見られる恵みの時かもしれません。がっかりしないで、恐れずに前向きでいきましょう。そうすれば必ず道が開かれると思います。

今日の福音（マタイ 17・1-9）を見ますと、3人の弟子達がイエス様が聖なる光を持ち、変わられる姿を、変容の姿を見たとあります。ある意味イエス様はありのままにいらっしやっただのかもしれませんが。弟子達の目が開いてありのままのイエスさまがみられるようになったのかも知れません。

この災害、難関によって、私達の目も正しくものを見ることができるよう恵みを求めましょう。何が一番必要なかわきまえられる恵みをいただきましょう。

ありがとうございました。